

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270401142		
法人名	有限会社 トムハート		
事業所名	グループホーム 緑彩苑		
所在地	〒265-0061 千葉県千葉市若葉区中野町1872		
自己評価作成日	平成21年9月29日	評価結果市町村受理日	平成21年11月12日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15
訪問調査日	平成21年10月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

目の前に田んぼや山が見える自然に囲まれた環境の中に4年前新築された施設で設備も新しく、光がよく取り入れられる明るい居室になっています。“その人らしさを尊重する”ケアの実践に努めておりご本人やご家族の話をよく聞き、ご本人の“やりたいこと”が実現できるように努めている。掃除や洗濯等の日課や趣味・特技を發揮していただき“生きがい”を持って生活できるように取り組んでいる。「ゆったり・ゆっくり 共に時を過ごし 想いあう心を育てる家」「自分でやれる喜び・・・それが笑顔を絶やさない 安らげる暮らし」の理念のもとサービスの実践に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

千葉市郊外・田園地帯に立地した採光のよいホームである。「ゆっくりゆったり」「自分でやれる喜び」を基本に据え、利用者と職員とが時を共有し暮らしている。利用者が畑で植えた無農薬の大根、小松菜、ほうれん草等を朝の食卓にのせる。一人ひとりのペースに合わせた暮らしがある。居室は明るく設えられており、利用者の要望に応じてベッドでもふとんでも利用できる。また、毎月開催されている誕生日会、あるいはクリスマス会、もちつき等イベントがある。職員は利用者のやりたいことを確認して実現できるようミーティングで話し合い、利用者一人ひとりの思いを共有している。そして全員が明るくきびきび働いている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくりゆったり、一人一人のペースに合わせた暮らし」を実現できるよう毎月のミーティングで話し合い実践につなげている。	「ゆっくりゆったり」「自分でやれる喜び」を基本として利用者と職員とが時を共有し暮らすことを理念としている。玄関と事務所とに理念を掲げて職員が常に目に触れるよう工夫し、日常業務に反映されるよう努めている。	パンフレット等作成する折には、地域との連携を方針とした理念を加えて、さらなる実践に結びつく取り組みを期待したい。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は時々民生委員の方が来訪する程度ですが今後は地域の行事への参加を進めて行きたい。地域の夏祭りには参加している。	散歩時に近所の方と挨拶を交わしたり、近くのお寺で開催される夏祭りに参加している。しかしながら、町会に加入しているものの地域との交流は少ない。	町会から地域行事を入手して参加する取り組み、あるいはボランティア等の参画の計画等により地域とのつきあいを進めていくことを期待する。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在ではできていない。民生委員の方を通じ地域との交流、認知症の理解を深め共に支えあえるような環境づくりを行きたい。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催できていないので今後は定期的開催し事業所報告や意見交換をはかりサービスの向上に努めたい。	運営推進会議は未だ開催されていない。また家族会は独居の生活保護受給者が多く、組織化されていないが、協力的な家族もあり、管理者は運営推進会議開催を目指している所である。	運営推進会議の意義を確認して、町会代表・民生委員・地域包括センター等に声かけして、まず出来るところからスタートさせる取り組みが早急に望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	制度上の不明な点や人員基準等の相談、事故発生時の報告をする事により、協力関係を少しでも築けるよう努めている。	区保健福祉センターと連絡を取り、利用者についての相談、報告をしている。また高齢福祉課と事故発生時の報告等、協力関係が築けるよう取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新入職時のオリエンテーションの際説明・理解して勤めてもらい、既職員にはミーティング等で再確認している。	県高齢者福祉施設協会の「拘束ゼロ」の基礎研修および専門研修に参加し、ホームミーティングで報告し職員の共有化をはかっている。また夜間以外鍵をかけないケアをしている。職員は利用者の仕草等に何気ない注意を払って実践している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の観察で発見したことは、申し送り、ミーティング等で話し合い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受け、ご家族様には随時説明し必要時資料を渡している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、必ずご家族又は後見人の方と共に説明し確認しあい、都度質問や疑問点に答えて、理解・納得のうえで同意いただく。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時に日常の様子をお話しそれに対する意見、要望等を聴き対応している。	家族面会時に利用者の健康状態、様子等報告している。また玄関にはご意見箱を設置して、利用者・家族からの相談、意見等を入手し、運営に反映させることができるよう努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや親睦会、休憩中等意見・提案を聞き可能なものは受け入れていく。	月1回のミーティング時に意見・要望を確認している。また職員が本音を言いやすいよう、定期的に居酒屋で親睦会を実施している。欠席者には料理の折詰を提供している。その結果、職員同士が何でもいえる環境づくりができています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境・条件(休みなど)希望を取り入れている。また相談があった場合は可能な限り受け入れている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティング時に勉強会を行っている、その他個々に必要に応じて指導している		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会等を通じて、研修参加時などで交流を図って行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の状況を理解し話をよく聞き、出来る限り要望を受け入れ安心していただくようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、面談、電話でご相談などいつでも不安のないようにしている。また、いつでも面会に来ていただいている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学、面談時必要に応じてた施設の紹介も行い支援に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人のできる事を共に行いながら、時には教えてもらいながら支援している。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報を共有し、面会時の立会いや施設行事など本人とかかわりが持てるように支援している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出の機会をご家族に依頼したり、散歩等で馴染みの場所へ行ってみる等関係が途切れない支援に努めている。	面会に来た友人と一緒に外出したり、馴染みの場所に出かけたり、関係継続の支援に努めている。また独居の方同士が協力して、会社所有の畑で、大根・小松菜・ほうれん草等の植え付けをしたりする支援をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレク、散歩等利用者同士が関係を持てるようにスタッフが対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時間があつたら気軽に寄っていただく様にお誘いしている。その際情報収集に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフは本人の意向、希望を把握するように努めている。困難な場合はミーティングで、話し合い出来る限り本人の意向に沿えるように努力している。	アセスメント・カンファレンスで利用者の現状を把握し、日常の会話から思いや希望を汲み取る様にしている。意思確認が困難な場合、日々の関わりの中で表情・行動から読み取り、利用者の意に添えるよう努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時の情報や面会時にご家族より情報を得て、これまでの生活習慣に近づけるように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活記録、申し送り、ミーティング、マッサージ師、医師、歯科医師などと常に情報を共有している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の記録の確認やミーティング、医師やご家族・本人の意見を取り入れ作成している。	日々の生活記録、職員の気付き、訪問マッサージ師、医師・歯科医師等の情報、家族・本人の意見を取り入れて「出来ることを引き出す」視点を大切に介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、生活メモ等を個別に記入している。それを元に介護計画の見直しに活かしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者個々の生活スタイルに合わせ、可能な限り柔軟に対応し、生活の場所であることを配慮するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア等不定期に受け入れているが今後はもっと積極的に活用したい。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に希望を聞いている。訪問診療の医師が隔週で往診に来ている。御家族の対応が不可能な定期以外の受診には職員が付き添う等支援している。	かかりつけ医による継続的な医療が受けられるよう、契約時に希望を聞いているが、ほとんどの方が協力医療機関をかかりつけ医としている。月二回の定期往診があり、利用者の安心につながっている。また、家族の対応が不可能な定期以外の受診には職員が付き添い、受診結果に関する情報は家族と施設で共有している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回訪問している。定期以外の相談や連携等支援に努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーとの情報交換や定期的に面会に出かけ利用者の状態の把握に努め、いつでも受け入れ出来るようにしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院等した場合そのまま帰れなくなることが多く見取りの経験は今までない。施設でできる事を充分説明し、納得していただく等ターミナルケアは今後の課題だと思います。	契約時、終末期の話はしていない。今まで看取りの経験は無いが、医療行為を除く終末期の介護は個別に対応を図り、医療機関と密に連絡を取り、関係者全員で方針の統一と共有化を図っていく意向である。	重度化や終末期に対する方針の共有については、出来るだけ早い時期に施設の統一方針を確立し、明文化されることが望まれる。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	市の救命講習を受けたスタッフとまだ受けていないスタッフがいる。今後積極的に受講して心肺蘇生法やAEDの操作方法を学んでいきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防管理者の下定期的に避難訓練を行う</p>	<p>事務所内に緊急対応表・連絡網を掲示し、火災報知機も設置してあるが開設以来一度も消防訓練を実施していない。現場職員は不安感を抱いている。備蓄も全くしていない。</p>	<p>定期的な総合防災訓練の実施が望まれます。避難経路や通報装置の使用法を職員全員に周知し、併せてADE操作の講習・消防署の防災管理責任者研修にも参加して万全の体制をとることが望まれる。また、地域との連携も望まれる。そして最低3日分の備蓄実施も望みたい。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	近くに寄って話しかけ、命令口調の言葉遣いはしないように心がけている。	プライバシーの確保や利用者を尊重した対応については月一回のミーティング、毎朝の申し送り時に繰り返し指導を行い、利用者の尊厳を傷付けないよう、特に言葉遣いに注意し、決して命令口調で話し掛けないように心がけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向に沿うように無理強いはしない。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の趣味や希望に合うように、体操、散歩、歌、ぬりえなどご本人のペースに合わせた支援をするよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みや体型に合うものを一緒に買いに行ったりしている、地域の美容院へ出かけたりもしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを聞きおやつなどに順次取り入れている。食材は業者委託で利用しているが、野菜の下準備など声かけして一緒に行っている。	昼食・夕食の食材は業者委託を利用している。朝食のみ苑の畑で丹精した旬の野菜を使い、利用者の希望を取り入れて調理している。利用者も無理のない範囲で一緒に手伝い、楽しく会話しながら食事しているが、職員は介助のみで、利用者の立ち去った後で食事をしている。理由としては「場所が狭い」事を挙げている。	職員が一緒に食卓につき、同じものを食べることで飲み込みの様子等把握し、楽しい会話の中から利用者の思いや希望を汲み取ったりできる貴重な時間である。一緒に食事できる体制を作ることが望まれる。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を確認し、少ないときには捕食や時間をおいて提供している。水分は10時、3時以外にも随時好みの飲み物を提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。スタッフによる見守り、一部介助を行っている。ご本人の希望により訪問歯科により口腔ケア及び治療を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗・失禁即おむつとならないように個人の排泄パターンの把握に努め、出来る限りトイレでの排泄が出来るように支援している。	失敗・失禁で即おむつとならないよう、個人の排泄パターンの把握に努め、一寸したサインを見逃さず、誇りやプライバシーを損ねないよう、上手にトイレ誘導して排泄の自立にむけた支援を行っている	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り排泄の観察をし便の状態も観察して水分摂取を心がけ、運動等促し、必要に応じてくするも使用している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は3回/週と決まっているがご本人の体調、希望によりシャワー浴等何時でも対応している。体調悪く入浴できないときは清拭、足浴等で対応している。	入浴日は週3回と決まっており、個別性を重視して希望の時間に入浴して頂いている。失禁などがある場合は、その都度シャワー浴を実施して清潔を心がけている。また、入浴拒否に対しては無理強いせず、声かけに工夫して誘導している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不良等ない方は日中はリビングにて他利用者とお話したり、ゲームやお茶を飲んだりしてゆっくりと過ごす。夜間は夕食後ご自分が就寝したくなるまではリビングにてテレビを観たりお話しして過ごす。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ユニットの利用者の服薬表を作り誰がどんな薬を服薬しているかスタッフに理解してもらい誤薬、副作用に充分注意するよう努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や特技を活かしながら、生活の中で洗濯や調理などの役割を持っていただいたり、歌やぬりえ、ゲームなどご本人の意向に沿った気分転換が出来るように努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物は日常的に行っている。企画を立てて数名ずつの外出も行っている、	希望があれば散歩・美容院・衣類の買い物など出掛けているが経済的な理由もあり参加者が少ない。ほとんどの利用者が生活におけるメリハリがなく、共同生活の喜びや活気がみられないまま一日を過ごしている。現場職員からイベントが少ないとの声もあり、花見などの企画も考えているが実行できていない。	行事としての外出のみでなく、日常的に近隣へ出かける機会を一人ひとりの状態・希望を配慮しながら、利用者全員の外出支援の機会を増やすように検討されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際ご本人にお金を持っていただき、希望のものをご自分で購入出来るように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を出したいときは事務所で預かり投函している。電話はいつでも取り次ぎを行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースのリビングの壁には利用者様の作品を飾ったり、玄関、棚等に季節の花を飾って落ち着いたきのある居心地よく過ごせるように工夫している。	共用のスペースにはソファやベンチがあり、利用者の好きなところで過ごせるよう工夫を込めている。また季節を感じさせる装飾品や花、利用者の手作り作品も飾られ、落ち着いたきのある雰囲気を利用者の心を和ませている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのリビングとは別に壁際にベンチのある空間があり大勢で活動したり、ご家族とのふれあいの場所として使っていたいしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に今まで自宅に使用されていた家具・持ち物は自由に持ち込んでいただき、住みなれた居室環境を提供できるように配慮している。	部屋の入り口には一人ひとり異なった分かりやすい表札がある。ベッドか畳に布団かを希望に合わせて選択でき、使い慣れた生活用具を持ち込んでいただき、居心地良く安心して生活出来るよう配慮している。また全居室にエアコンが設置してあり、空調も適切に行われている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下への手すりの設置、各自居室前の表札、トイレ等にわかりやすいように表示、バリアフリーなど安全に自立した生活が送れるよう工夫している。		